

令和4年度
春日市文化財年報

2023

春 日 市

令和4年度
春日市文化財年報

2023

春 日 市

序

春日市はアジアに開かれた福岡都市圏の中央部に位置し、14.15㎢という狭い市域に11万人以上が暮らす県内有数の都市として発展しています。

コンパクトで住環境にすぐれた本市は、古くから大陸との交流の玄関口として栄え、特に福岡平野の中でも南部にあたる春日丘陵周辺には弥生時代の貴重な遺跡が密集し、中国の歴史書である「後漢書」や「魏志」倭人伝に記された「奴国」の王都であったとされています。

令和4年度は、資料館事業の中でもコロナ禍で延期されていた第10回奴国の丘フェスタを開催し、市内外へ文化財啓発を行いました。また、令和5年3月1日に、ウトグチ瓦窯跡から出土した瓦と須恵器を春日市指定文化財に指定しました。

本書は、令和4年度に実施した市内における埋蔵文化財の発掘調査及び奴国の丘歴史資料館の事業の概要をまとめたものです。本書が広く一般に活用され、市民の方々が文化財への理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の調査及び資料館事業において御協力をいがだきました皆さんに心よりお礼申し上げます。

令和5年9月29日

春日市奴国の丘歴史資料館
名誉館長 武末純一

目 次

I	文化財保護事業の現状と組織	1
II	発掘調査の概要	
1	中白水遺跡（17次調査Ⅱ期）	2
2	九州大学・御供田遺跡（8次調査）	5
3	須玖岡本遺跡岡本地区（26次調査）	8
4	須玖坂本B遺跡（9次調査）	11
5	高辻D・F遺跡（4次調査Ⅰ期）	14
6	大土居水城跡（9次調査）	17
7	竹ヶ本B遺跡（5次調査）	20
8	門田遺跡（11次調査）	23
9	須玖岡本遺跡岡本山地区（17次調査）	26
10	須玖岡本遺跡岡本山地区（18次調査）	29
III	文化財普及啓発事業	
1	企画展示等	
①	パネル展「発掘された春日の遺跡」	32
②	トピック展「市指定化記念展」	32
③	奴国の丘歴史公園絵画展	32
④	考古企画展「春日市の日本遺産」	32
⑤	民俗企画展「どうすごす？季節の民具」	33
2	やきものづくり教室	33
3	発掘調査体験	33
4	わくわく歴史体験	33
5	プラかすが歴史散歩	34
6	弥生の里かすが奴国の丘フェスタ	34
7	学習支援活動	35
8	博物館実習	35
9	出前講座等	35
10	ボランティア組織	35
11	資料貸出	35
12	入館者数	36
13	利用案内	36
IV	附編（調査・研究報告）	
1	令和4年度須玖岡本遺跡確認調査（地中レーダー探査）	37

例 言

- 1 本書は、春日市協働推進部文化財課が、令和4年度に行った文化財事業の概要である。
- 2 本書の作成は、担当者が分担して行った。
- 3 本書に使用した各種図版の作成は、吉田薰、吉村美保が行った。
- 4 本書に使用した写真の一部は、有限会社空中写真企画、写測エンジニアリング株式会社に撮影を委託したものである。
- 5 発掘調査の概要については、文末に報告者名を記した。

I 文化財保護事業の現状と組織

春日市では昭和 52 年以降、埋蔵文化財の保存、保護に伴う発掘調査体制を整備させ、実施を行なってきました。土木、建築工事等による埋蔵文化財の破壊を避けるために事前審査を行い、現状での保存ができない埋蔵文化財については、発掘調査による記録保存を行っている。

令和 4 年度の開発事前審査では埋蔵文化財に関する照会件数は 1655 件に上る。試掘・確認調査の実施件数は 36 件、掘削を伴う調査を要さず審査回答を行った件数が 8 件である。前年度と比較すると、問い合わせ件数がやや増加している。開発内容は、共同住宅建設が 7 件 (16%)、個人住宅件数が 25 件 (57%) で、その他の 12 件を含めると申請件数の約 7 割が住宅建設に伴うものである。

また、令和 4 年度に提出のあった発掘届については、文化財保護法第 93・94 条の規定に基づき本調査を行うようになったものは 4 件、工事立ち合いで対処したものは 31 件である。埋蔵文化財が確認されず、慎重工事で対処したものは 23 件である。

文化財普及啓発事業では、日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアの交流拠点～」において、令和 2 年 6 月に春日市を含む、太宰府市周辺の 5 市 2 町が追加認定されたことから、考古企画展にて、春日市にある日本遺産の構成文化財を紹介する展示を行った。また、令和 3 年度に実施した春日市北小学校での地中レーダー探査に基づき、小学校の校庭の一部で発掘調査（須玖坂本 B 遺跡 9 次調査）を実施した。発掘調査では、地中レーダー探査に参加し春日市北中学校に進学した生徒を含む春日北小学校の児童を対象に、発掘調査体験会を行った。このほか、コロナ禍において延期されていた第 10 回奴国の大丘フェスタが感染症対策を取りながら開催された。

令和 4 年度の文化財行政にかかる組織体制は次のとおりである。

教育長	爾 弘行	調査保存担当	
教育部長	金堂円一郎	統括係長	井上義也
文化財課長	高田勘治	主　　査	吉田佳広
整備活用担当		主　　任	山崎悠郁子
統括係長	高田博之	主　　事	熊埜御堂早和子
主　　査	森井千賀子	主　　事	藤謙太朗
主　　任	塚元雅代（～6 月）	会計年度任用職員	下田詩織
主　　任	木村太郎	会計年度任用職員	演邊 空
主　　任	岩本慎平（7 月～）		
会計年度任用職員	賀瀬瑞実子		
会計年度任用職員	西尾純司		

II 発掘調査の概要

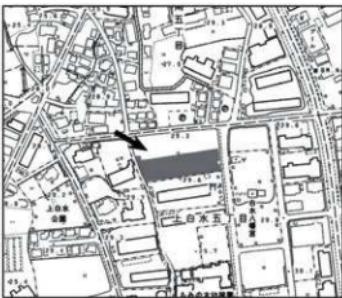
1 中白水遺跡（17次調査Ⅱ期）

所在地 春日市上白水5丁目24～26番地

調査面積 1,865 m²

調査期間 2022年4月1日～8月12日

中白水遺跡は弥生時代から江戸時代にかけての遺跡である。春日市の西部の段丘上に位置し、標高28.5m前後を測る。対象地北側には弥生時代中期の集落と墓地を主体とする寺田・長崎遺跡が近接する。過去に実施した調査によって、荘園領主の館が確認されており、京都の石清水八幡宮の所領である白水荘とされる。



1. 調査地の位置 (1/5000)

今回の調査は、昨年度から続く公園および調整池造成に伴う緊急発掘調査である。Ⅱ期では対象地の南部1/2の調査を実施し、全面的な掘削は行わず遺構が削平される貯留施設造築範囲のみ人力で遺構を掘削し、範囲外となる西部約1/3は上面の記録に留めた。

遺構・遺物

17次調査（Ⅱ期）では、堅穴建物跡3軒以上、掘立柱建物跡6棟以上、土坑24基以上、溝12条、



2. 調査区全景（令和3年度調査地との合成 上が北）

ピット多数を検出した。

弥生時代の遺構は、竪穴建物跡 2 軒、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 15 基、溝 3 条である。竪穴建物跡はいずれも方形である。出土遺物から、13・15 号竪穴建物跡は弥生時代中期中頃だが、柱穴を確認できなかつた。掘削深度は、5 ~ 15cm 程度と浅く、弥生時代以降に土地の造成が行われたと考えられる。掘立柱建物跡は、調査地中央で 4 棟、調査地東部で 1 棟検出した。調査地中央では桁行方向が南北の建物跡を 3 棟、東西の建物跡を 1 棟確認した。いずれも弥生時代中期の 4 号溝を切る。また、東部の 7 号掘立柱建物跡は中世の 69 号土坑に切られる。土坑は、調査地東部と西部で検出した。掘削を行つたのは東部のみだが覆土に高杯、器台、甕等の土器が多く量に混じる傾向がある。

14 号竪穴建物跡は形態から古墳時代以降だが、遺物がなく、時期は不明である。

中世の主な遺構は、掘立柱建物跡 1 棟と土坑 9 基、溝 7 条である。調査区東部は、I 期の調査成果と合わせてみると 2 号溝によって 30m 四方が区画され、内側から掘立柱建物跡 1 棟と土坑 8 基を確認した。6 号掘立柱建物跡は桁行 3 間、梁行 2 間以上であり、屋内柱の 4 つは 5cm と浅く板状の石を据えるが、側柱の 7 本は約 30cm と深くこぶし大の栗石を詰め込む。遺物はほとんど出土しないが、土師皿の細片を確認している。58 ~ 63 号土坑は、いずれも円形で壁面が内傾し、床面近くにはシルト質の土と砂が堆積する。このうち、63 号土坑の床面近くからは完形の土師器の皿が 39 枚並んで出土した。3 号溝は、南側と西側の 2 か所が陸橋状になる。8 号溝は調査区中央部に位置する。8 号溝は I 期の調査で南北方向に延びていたが、II 期では途中から南に屈曲する。8 号溝の時期は、12 世紀後半から 13 世紀代である。

小 結

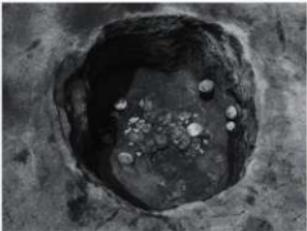
今回の調査及び、これまでの発掘調査の成果によって、弥生時代中期と 12 世紀後半の集落の変遷について一定の成果を得た。中白水遺跡周辺では寺田・長崎遺跡や石尺遺跡で同時期の遺構が確認されており、集団の単位として括りととらえることが出来る。また、12 世紀後半についても在地領主層の居館と白水八幡宮の間の土地がどのように活用されていたかわかる成果が得られた。（山崎）



3. 61・62号土坑（北から）



4. 6号掘立柱建物跡（西から）



5. 63号土坑（南から）



6. 遺構配置図 (1/400)

2 九州大学・御供田遺跡（8次調査）

所在 地 春日市春日公園6丁目1番地の一部

調査面積 241 m²

調査期間 2022年5月16日～7月30日

九州大学・御供田遺跡（以下御供田遺跡）は、市域の東端部に位置する。弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、南東部は大野城市側へ広がる。御供田遺跡の一部は、九州大学筑紫キャンパス内にあり、「九州大学筑紫キャンパス遺跡群」と呼称される。御供田遺跡は、九州大学筑紫キャンパス遺跡群を包含し、一連の遺跡として知られる。

8次調査地点は、九州大学筑紫キャンバス（以下筑紫キャンバス）内に所在し、御供田遺跡の東部にある。筑紫キャンバス春日門から略南方向にあり、牛頸川右岸の丘陵北裾部に位置する。検出面の標高は、約25.0～26.0mで、現地表面から約3～4mの深さにある。九州大学埋蔵文化財調査室による既往の調査では、縄文時代の遺物を多く含む包含層や溝、弥生時代から古代にかけての集落跡や、水城西門から鴻臚館とを結ぶ官道（西門ルート）と考えられる遺構、巴形銅器鋳型、石剣、須恵器や瓦器の窯道具などの遺物が見つかっている。また、筑紫キャンバス周辺における御供田遺跡の発



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が北西）

掘調査では、弥生時代の甕棺墓群や、弥生時代から古代にかけての竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝などが確認されている。

今回の調査は、九州大学・留学生寮建設に伴う緊急発掘調査である。



3. 1号土坑（北から）

九州大学筑紫キャンパス遺跡群の報告（以下九大報告）では、キャンパス内は「エリアI」から「エリアIV」に分けられ、さらに、遺跡群を基盤目状に、北東—南西方向を「1～17」、北西—南東方向を「A～W」に区画される。8次調査地点は、「エリアI・9B区」の略北東に位置し、九大報告47次調査地点と隣接する。

8次調査では、九大報告47次調査で検出された溝の延伸部に相当する1号溝、2号溝を含む、4条の溝と不定形の浅い土坑1基を検出した。

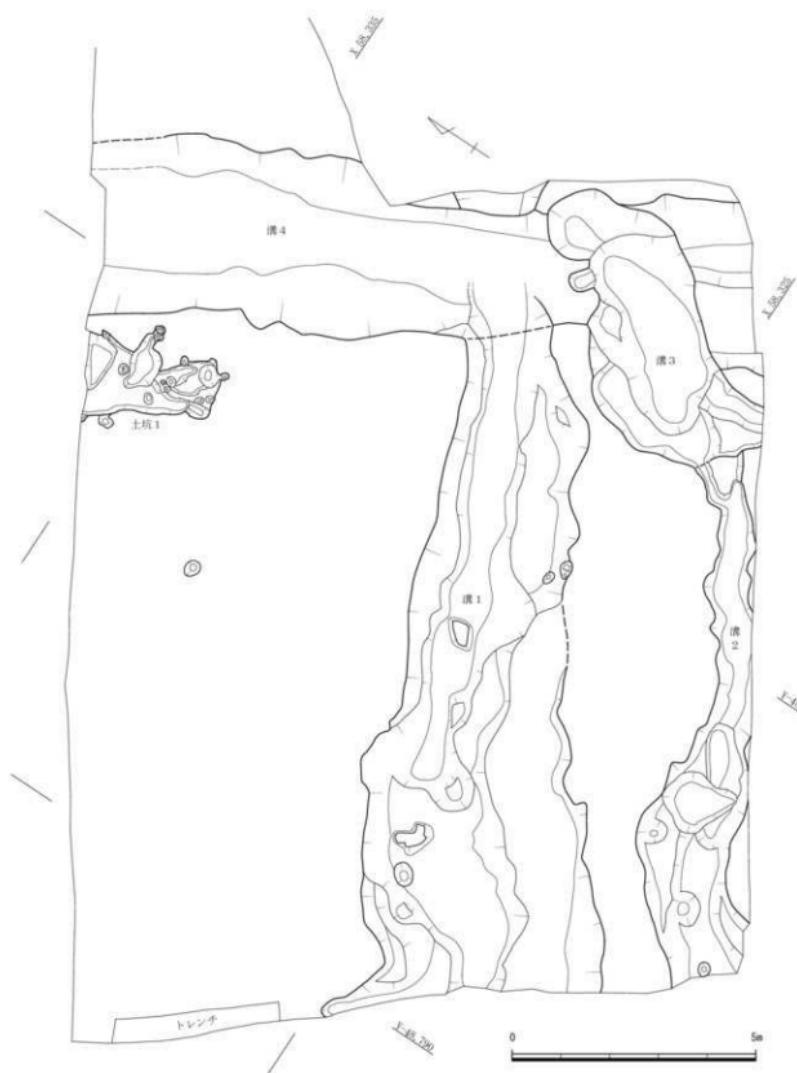
1号溝、2号溝とともに調査区の東西に延び、1号溝は東側で南北に流れる4号溝と交差し、2号溝は東側で3号溝、4号溝と重複する。いずれも縄文時代から中世にかけての遺物が検出面から床面直上にまで混在して包含される。1号溝から3号溝の覆土層序は、シルト質の砂層と礫層が交互に交じる。矢板や柵など人為的な遺構は検出されず、形状も不整形なため、自然流路と判断した。

4号溝は、九大報告で検出された官道西側側溝（？）SD101遺構と方向性を一にするが、覆土に近世の陶磁器片を1点包含しており、官道との関係性について確証を得ることができなかつた。

遺物は、3号溝から出土した土馬の頭部や、1号溝と4号溝の交差点付近の床面で出土した北宋銭「至道元寶」（初鑄995年）が注目される。

小 結

今回の調査において、御供田遺跡から初出土した土馬と、水域西門ルートの官道・西側側溝遺構に関わる可能性のある4号溝の検出が最大の成果といえよう。しかし、4号溝は九大報告SD101溝との連続性、もしくはその延伸である証拠はつかめていない。西門ルート官道は、北から順に福岡市野間B遺跡、春日市先ノ原遺跡、春日公園内遺跡、御供田遺跡、大野城市池田遺跡、谷川遺跡などが確認されており、官道のラインに一致するかなど今後検討していきたい。(濱邊)



4. 造構配置図 (1/100)

3 須玖岡本遺跡岡本地区（26次調査）

所在地 春日市岡本7丁目54、55番

調査面積 43.03 m²

調査期間 2022年5月18日～8月23日

須玖岡本遺跡岡本地区は春日丘陵の北端部付近に立地する。26次調査地は、岡本地区の西端部に位置し、2m高い東側は、京都帝国大学が調査したC地点や春日市1・2次調査地などが並ぶ、所謂、王族墓エリアである。このため当該地の本来の地形は、西側を流れる諸岡川に向かい下がる春日丘陵西斜面で、後世に改変されたと推測された。また、「当該地と東側の境は崖面で、甕棺が出土していた。」という地元の古老の話がある。

しかしながら、26次調査地とその北・南隣接地は未調査で、須玖岡本遺跡の墓域を復元するためには、当該地を調査する必要があった。令和3年6月に地中レーダー探査を行ったところ、対象地の東南部で地表下75cmに甕棺などの遺構か、撤去した家屋の埋設物と思われる反応があった。

今回の調査は、遺跡の残存状況や性格を明らかにするだけではなく、当該地での地中レーダー探査が有効か否かを確認することを目的とした確認調査である。

遺構・遺物

確認調査は、対象地の形状、想定される旧地形と地中レーダー探査の結果から、幅2mのトレンチを北・南・東部に「コ」字形に設定し、遺構の検出状況によりトレンチを拡張、追加することにした。まず、地中レーダー探査で遺構の存在が考えられた南東部に東西方向の1トレンチを人手により掘削した。表土などを除去すると地表下15cmで甕棺片、花崗岩の石塊や板石、赤色顔料？などを含む埋め土を確認した。石棺墓や石蓋土坑墓、墳丘墓の存在を想定し、慎重に調査を進めたが、その下層から現代の鉄製品などが出土した。このため西部を部分的に掘り下げたところ、地表下100cmに戦後まで使われていた水田を検出し、その下は地表下300cmまで砂礫層が続いている。

次に対象地北部に東西方向の2トレンチを設定した。2トレンチ西部は1トレンチと同じ状況で、旧水田下は砂礫層が堆積していたが、北東部で地表下20cmに西側に傾斜する地山を検出した。1ト



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (北から)

レンチに接続する南北方向の3トレンチは、地表下180cmまでは同様であった。2トレンチに接続する4トレンチは、2トレンチから続く地山を検出した。地山は北西方向に延び、それより西側は、1・3トレンチと同様であった。

各トレンチは、部分的に人力により深く掘削し、ある程度状況が掴めたため、全体の掘削は重機を使用した。また、土置場などを配慮し、トレンチの設定を「コ」字形から1・3トレンチと2・4トレンチの2つの「L」字形に変更した。

なお、各トレンチの上層からは弥生土器片などが出土したが、トレンチ下層の砂礫層からは陶磁器なども出土する。

小 結

今回の調査では調査地の北東部で、西側に傾斜する地山を検出したが、墳墓などの遺構はなかった。調査結果から考えると当地は諸岡川の氾濫原で、丘陵の一部が削られたと考えられる。京大報告の地形図では、当地は丘陵部が渋曲する部分に当たり、調査成果とも一致する。どの段階で丘陵が諸岡川の氾濫で削られたのかは不明だが、弥生時代首長層の墓域は諸岡川の岸辺付近まで迫っていたことが分かった。墓域西端部付近を明らかにできたことは、須玖岡本遺跡を復元する上で貴重な成果と言える。

なお、調査中に地元の古老に話を聞いたところ、旧水田は岡本山から持ってきた土や東側高所の土で埋めたとのことであった。埋め土に含まれる花崗岩塊は、持ち込まれた石棺墓などの棺材の可能性もあるが、赤色顔料の付着は見られず断定できない。調査区東南部には花崗岩塊が集中した部分があり、地中レーダー探査で反応があった地点とほぼ一致するため、花崗岩塊群がレーダーに反応した可能性がある。

(井上)



3. 1・3トレンチ（東から）



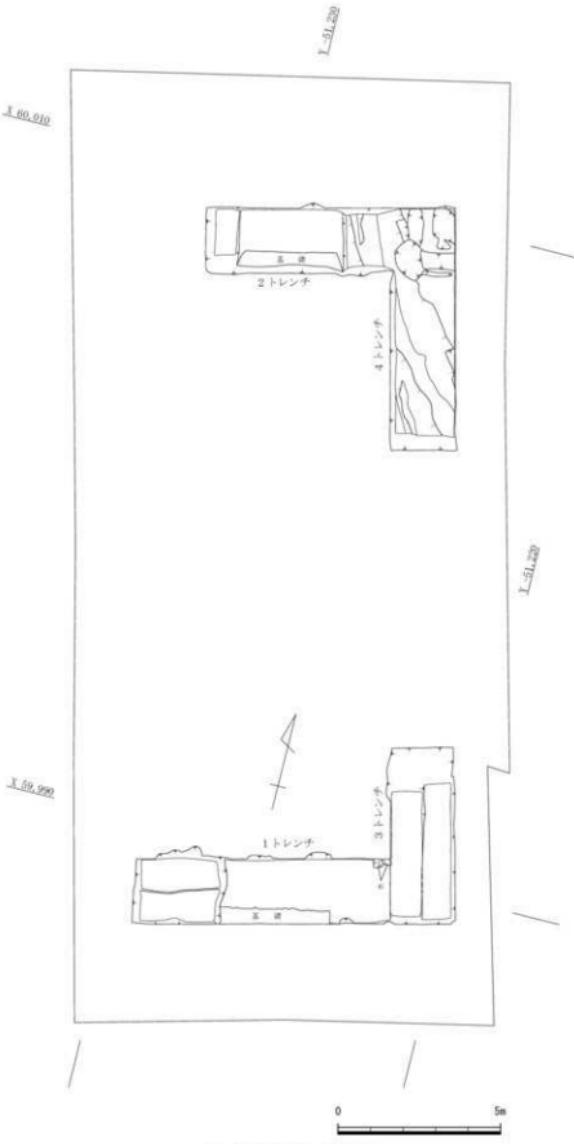
4. 3トレンチ花崗岩塊出土状況（東から）



5. 2・4トレンチ（東から）



6. 2トレンチ北壁地山落ち際（南から）



7. 遺構配置図 (1/150)

4 須玖坂本B遺跡（9次調査）

所在 地 春日市岡本1丁目35番

調査面積 47.97 m²

調査期間 2022年7月21日～8月22日

須玖坂本B遺跡は、須玖岡本遺跡の北側に所在する弥生時代を中心とする遺跡で、現在は春日北小学校になっている。小学校建築前の造成を観察した鏡山猛氏によると堅穴建物跡や大溝が存在するという。

過去の発掘調査では、南端部に幅4～5mの直線的な溝、西部や南部では青銅器工房跡と考えられる遺構を確認した。鋳型、銅矛中型、坩堝／取瓶などの多くの青銅器生産関連遺物や貨泉、漢式鐵、天秤權などの重要遺物が出土する。ただし、これらの発掘調査は遺跡の縁辺部の調査が殆どで、遺跡中心部の実態は分かっていなかった。また、当遺跡は立地などから奴國の首長層の居住地の候補地でもある。

以上のように、須玖岡本遺跡と関連性が高い当遺跡について、詳細を明らかにすることは、須玖岡本遺跡の整備にも大きく影響があると考え、まず、令和3年12月、奈良文化財研究所の金田明大氏、春日北小学校6年生の協力を得て地中レーダー探査を行い、遺構らしき反応が数カ所で見られた。これを受けて、令和4年の夏休み期間に確認調査をおこなった。掘削を伴う、遺跡の破壊による記録保存ではないため、遺構は半裁にとどめるなど、完掘していないものがある。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（南から）

なお、地中レーダー探査に携わった春日北中学校1年生と春日北小学校現5・6年生に確認調査の案内を行い、発掘体験を実施した。

遺構・遺物

発掘調査は、地中レーダー探査で遺構らしき反応があった地点のうち、大型掘立柱建物跡の柱穴らしき反応があり、グラウンドの復旧に支障がない部分を選択した。その結果、グラウンド南部のサッカーゴール南西側に南北5m×東西10mの調査区を設定した。なお、本来の地形は南から北へと緩やかに下がるが、過去の発掘調査の成果から数十cm削平されたことは明らかで、遺構の残存状況は悪いことが予想された。

重機を使用し表土などを除去したところ、地表下40cm前後で、弥生時代の掘立柱建物の柱穴、古代の土坑、溝などを検出した。また、調査区の大部分を占める溝（擾乱溝）は、小学校の造成の前まで機能したと考えられる。弥生時代の遺構からは、中期の土器が出土するが、小片のため時期の詳細は不明。古代の土坑からは、須恵器片や瓦が出土した。掘立柱建物跡は調査区内に数棟あると推察されるが、調査区が狭小なため具体的な建物跡は復元できなかつた。

小 結

今回の調査では、地表下40cm前後で弥生時代を中心とする遺構を検出した。地中レーダー探査でみられた大型掘立柱建物の柱穴らしきピットは検出できなかつた。今後、再度地中レーダー探査の結果と調査区の位置について検討を行い、次年度以降の継続調査に活かしたい。(井上)



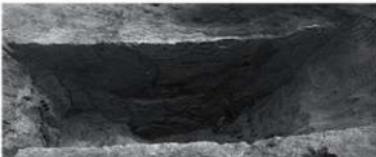
3. 掘立柱建物跡（東から）



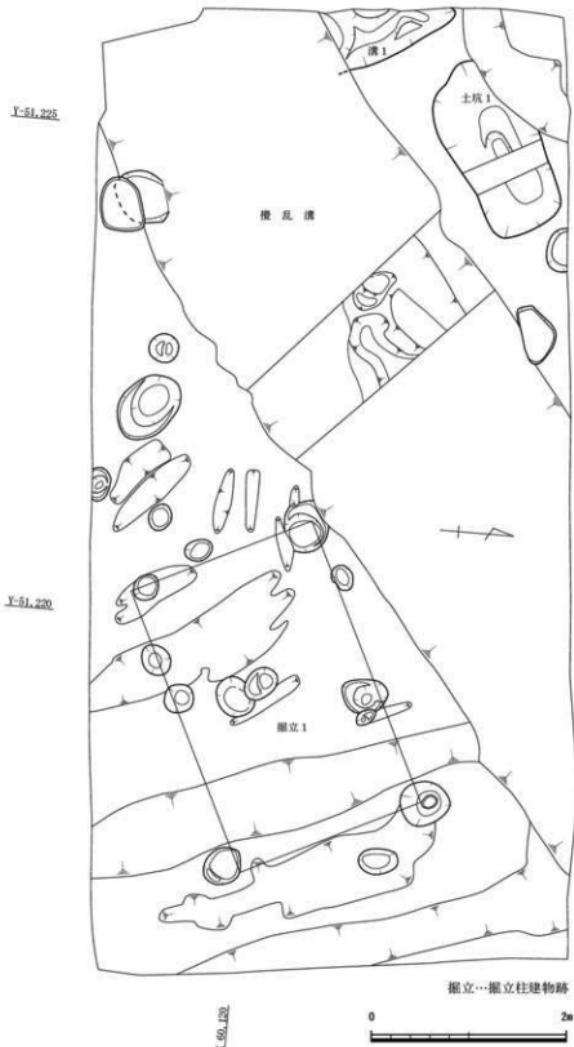
4. 1号土坑（南東から）



5. 1号土坑土層（南西から）



6. 摆乱溝土層（南西から）



7. 造構配置図 (1/50)

5 高辻D・F遺跡（4次調査Ⅰ期）

所在地 春日市小倉東2丁目23、27番

調査面積 約980m²

調査期間 2022年8月6日～2023年3月31日

高辻D・F遺跡は春日丘陵の中央付近にあり、調査地点は東方に延びる小丘陵上に位置する。標高は最も高いところで40mを測る。対象地西側の2・3次調査地点では、大溝が見つかっており、須玖遺跡群を囲む環濠の一部の可能性が指摘されている。



1. 調査地の位置 (1/5000)

今回の調査は、宅地造成工事に伴う緊急発掘調査で

あり、令和4年度は丘陵斜面の造構が残存する部分をⅠ期調査として発掘調査した。丘陵頂部については、Ⅱ期調査として次年度に発掘調査を実施する。

遺構・遺物

Ⅰ期調査では、堅穴建物跡7軒、土坑12基、溝6条、ビット多数を検出した。発掘調査は対象範囲を南斜面下段・中段・西側平坦部と3つに分割して行った。

南斜面下段では、土坑1基、溝2条、ビット多数を検出した。包含層が中央付近の谷部に厚く堆積しており、出土遺物は弥生時代中期後半の土器を主体とする。包含層上面には多くのビットが掘り込まれるが、包含層の堆積前や堆積過程で掘り込まれたビットや土坑も確認した。ビットの中には、柱



2. 調査区全景 (南西から)

穴と思しきものも存在するが、建物跡として配列が確認できるものはない。

南斜面中段では、堅穴建物跡3軒、土坑6基、ピット多数のほか、太平洋戦争前後の炭焼き窯を検出した。1号・2号・3号堅穴建物跡の平面形は、方形ないし隅丸方形を呈す。規模は1号堅穴建物跡の東西幅が2.9m、3号堅穴建物跡の南北幅が4.0mを測るが、炭焼き窯に大きく切られ不明な部分が多い。主柱穴は不明である。時期は弥生時代中期である。南斜面中段も下段と同じく包含層が堆積しており、検出した遺構のほとんどは、包含層の堆積後に掘り込まれていたが堆積前や堆積過程で掘り込まれたピットも確認した。

西側平坦部では、堅穴建物跡4軒、土坑5基、溝1条を検出した。堅穴建物跡の平面形はいずれも方形を呈す。5号堅穴建物跡は、長軸5.6～6.0m、短軸4.6～5.0mを測り、主柱穴は2個、北辺にベッド状遺構を設ける。中央部には炉跡が3個あり、炉を作り直す際に、客土を充填して床面が整え直された状況を確認した。床面上からガラス小玉と石



3. 4～7号堅穴建物跡（東から）



4. 10号土坑（南から）



5. 炭窯（北から）

製管玉が出土した。時期は弥生時代後期である。7号堅穴建物跡は、長軸3.8～4.0m、短軸3.1～3.3mを測り、5号堅穴建物跡に切られる。主柱穴は2個、南辺・西辺の一部には壁際溝を設らえている。4号堅穴建物跡は南北幅3.0mを測るが、調査区外に延びるため東西の規模は不明である。北辺に遺構の外に延びる溝を検出している。6号堅穴建物跡は遺構が調査区外に延び、4号・5号堅穴建物跡に切られているため、全容は不明である。10号土坑は2.4m×2.0mの略楕円形を呈し、深さ約1.8mを測る。弥生時代の貯蔵穴と考えられるが、大部分が防空壕と重複し擾乱されている。土坑内からは、弥生土器や手捏ね土器などが出土している。溝6は南北に延び、5号堅穴建物跡に切られる。調査区際の南端部に土器が集中し、鐵などの鉄製品が2点出土している。時期は弥生時代後期である。

小 結

南斜面中段の僅かな平坦部で堅穴建物跡3軒、西側平坦部で堅穴建物跡を4軒検出しており、次年度調査を実施する丘陵頂部の平坦部には、それを超える数の堅穴建物跡が予想される。

今回の調査で、弥生時代中期後半～後期の土地利用について一定の成果を得た。高辻D・F遺跡周辺では、高辻E遺跡や大南A遺跡で弥生時代中期～後期の集落が確認されており、今後、須玖遺跡群南部の弥生時代の集落の動向を比較検討していく必要がある。

(藤)



6. 遺構配置図 (1/250)

6 大土居水城跡（9次調査）

所在地 春日市昇町8丁目25、26番、及び地先

調査面積 33.5 m²

調査期間 2022年4月19日～5月2日、8月3日～9月16日、10月19日～10月22日

特別史跡である大土居水城跡は小丘陵間の谷間にあり、現在、東西約110mの土壘が残存する。今回調査した9次調査地点は土壘が取り付く自然丘陵で、土壘の背後にあたる。対象地は史跡指定地であるが、この史跡指定地に隣接する里道と民有地間に平均2m前後の高低差がある。この里道が令和3年2月に崩落し始め、遺構保全及び安全上、早急な対策を行なべき状況にあったことから、防災工事に先立ち、遺構の有無などの基礎資料を得るために確認調査を行った。



1. 調査地の位置 (1/5000)

遺構・遺物

今回、防災工事に先立ち、まず崖面と里道で範囲内で土層断面が確認可能な3ヵ所を精査し、地山の位置を確認した(1～3トレンチ)。地籍図では、史跡指定地である25、26番の東側に里道が隣接し、里道の東側に平行して幅約1mの水路がある。現状において里道は確認されたが水路の痕跡はわから



2. 調査区北部全景 (北西から)

なかった。防災工事は史跡指定地ではない里道及び水路の範囲内での施工を計画した。その後、史跡指定地において現状変更申請を行い、重機を用いて必要最小限の掘削を行った。重機での掘削は、防災工事に先立ち、史跡指定地への影響を確認するため、工事対象地の東部にトレンチを4ヶ所設定した（4～7トレンチ）。工事対象地の北半は石積みを伴う平坦面があり、後世に造成されていることは明らかであったが、石積みの下層から棟瓦が出土したことから、近現代の造成であることがわかった。4～6トレンチで確認した地山は西から東にかけて低く傾斜している。対象地の南部は現状において北部の平坦面より約144cm低く平坦である。周囲の竹林の地形と比較すると後世に造成されたことがうかがえる。この南部に設定した7トレンチでは水路の痕跡があった。水路は北から南に低く傾斜するが削平されており、トレンチの南東部ではわずかに検出した。7トレンチ内の掘り込みはほとんどが搅乱である。調査終了後は、調査区内は掘削土により埋戻し、旧状に復した。

小 結

確認調査の結果、トレンチ掘削時に須恵器、土師器の細片が出土したが、これらの遺物は造成時の客土に含まれるものである。大土居水城跡が造られ維持されていた時期の遺構を確認することはできなかった。

確認調査終了後、防災工事は里道及び水路の範囲で、民有地に面する崖面に立体ジオセル工法で擁壁（長さ39.5m、高さ1.8～2.7m）を設置した。擁壁から史跡指定地にかけては安定勾配をとるため切土したが、切土は近現代の造成による盛土内に納めた。

（森井）



3. 4 トレンチ北壁土層（南から）

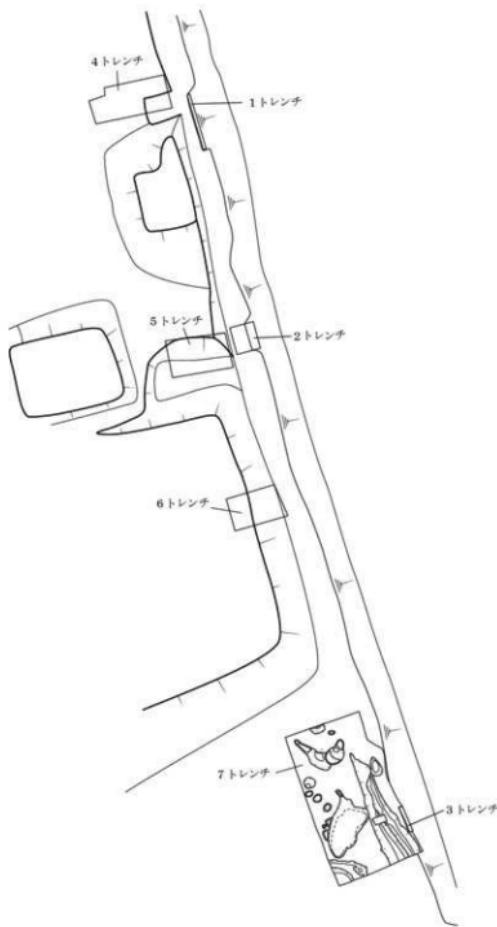


4. 5 トレンチ北壁土層（南から）



5. 7 トレンチ（北から）

M.N.



0 10m

6. 造構配置図 (1/200)

7 竹ヶ本B遺跡（5次調査）

所在地 春日市弥生5丁目70番

調査面積 99.4 m²

調査期間 2022年9月20日～11月30日

竹ヶ本B遺跡は弥生時代から古墳時代にかけてと、江戸時代の遺跡である。春日丘陵中央部の東西に延びる小支丘陵上の標高40m前後の丘陵頂部に立地し、近世以降、現在まで小倉地区の共同墓地として利用される。過去に隣接地で実施した3・4次調査地点で、

弥生時代の甕棺墓と江戸時代の墓坑を確認し、近現代

墓地による損壊が著しいものの、この甕棺墓群が当地まで続くと考えられた。

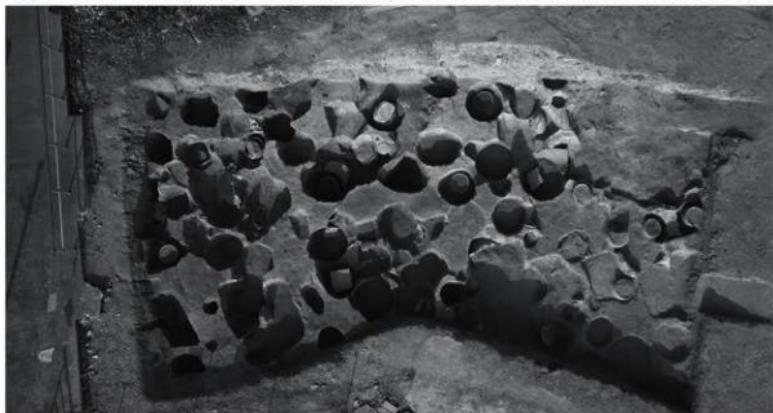
今回の調査は、墓地の改葬に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)

遺構・遺物

5次調査では、甕棺墓24基と近現代の墓穴89基以上を検出した。甕棺墓は、弥生時代中期前半～後期前半の大型棺12基、小～中型棺6基と、残存部位が少なく時期の特定が困難な大型棺3基、小～中型棺2基である。また、樹木の伐根立ち会い時に弥生時代中期後半の大型棺を1基確認した。甕棺墓の墓坑は、3・4次調査と同様に大半が近現代の墳墓により著しく攪乱されており、正確に把握できていない。今回の調査では、小型甕棺墓の残存状況が極めて悪く、大型甕棺墓の上甕もほぼ残存



2. 調査区全景 (上が北)

していないことから、当地は 50 cm 程度の削平を受けたと考えられる。

甕棺のうち、2・12・23 号甕棺墓はほぼ水平に埋置するが、大半は下甕を上甕より低くして埋葬する。特に 1・10・18 号甕棺墓は傾きが大きく傾斜角度 35° 前後である。2・10・11・12・13・18・21・24 号甕棺墓は、接口部に青灰色粘質土を貼り付ける。上甕を欠失する甕棺墓が多いが、甕棺の組み合わせは、2・12 号甕棺墓が鉢 + 甕、13・14・21・22 号甕棺墓が甕 + 甕、3・6 号甕棺墓が壺 + 甕である。いずれの甕棺墓も副葬品はないが、18 号甕棺墓は一部に朱が付着した人骨を検出した。骨は黒色に変色し、朱は歯及び頸の骨に付着する。骨の周囲には、後世の墳墓を掘る際に破損した甕棺の破片が混じるため、原位置を保っていないと思われる。

今回の調査でも調査対象外としたが、近現代の墓を 89 基以上確認した。過去の調査同様に方形と円形の墓坑があり、方形の墓坑が古く、円形の墓坑は、中に陶器の甕棺を埋置後、石もしくはコンクリートで蓋をするもの等を確認した。3・4 次調査と比較して、陶器の甕を埋置した墓坑が多い。

小 結

今回の調査によって、竹ヶ本 B 遺跡における甕棺墓地の範囲と展開について一定の成果を得た。甕棺墓の残存状況から、旧地形は当調査地の南部にあり、墓域は東西約 50 m、南北 30 m に展開する。造営は弥生時代中期に開始し、弥生時代後期前半まで継続する。甕棺は一部丹塗りしたものと黒塗りしたものを確認したが、基本的に副葬品ではなく一般成員の墓域と推察できる。今後は、周辺の集落遺跡の調査成果をまとめ、墓域と集落の関係について検討していきたい。

(山崎)



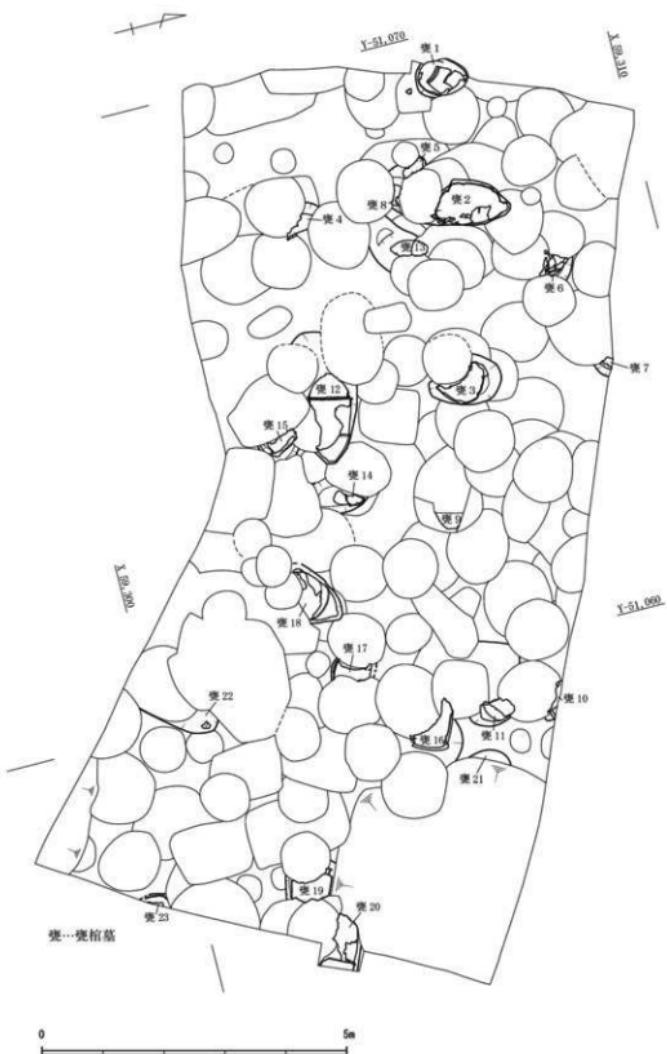
3. 2号甕棺墓（西から）



4. 12~14号甕棺墓（南から）



5. 18号甕棺墓人骨出土状況（南から）



6. 遺構配置図 (1/80)

8 門田遺跡 (11次調査)

所 在 地 春日市上白水 8 丁目 79 番地

調査面積 175 m²

調査期間 2022年12月1日～2023年2月17日

門田遺跡は、春日丘陵の西側に広がる中位段丘に立地する。門田遺跡北端に位置し、遺構面の標高は32m前後である。過去の調査では、段丘上で弥生時代中～後期と古墳時代初頭及び後期の集落跡や墓地を確認している。また、北東約200m先には古墳時代後期の日拝塚古墳、北には弥生時代中～後期の辻畠遺跡が所在する。

今回の調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)

遺構・遺物

11次調査では、弥生時代の可能性がある土坑1基と、古墳時代中期初頭の堅穴建物跡1軒、ピットを4個検出した。



2. 調査区全景 (南から)

1号土坑は落し穴状遺構と思われる。対象地の南東部で1号竪穴建物跡中央の床面下から検出した。平面形は方形を呈し、長さ90cm、幅72cm、深さ63cmである。床面中央に直径12cmのピットが掘り込まれる。覆土は、灰白～淡黄灰色粘質土で固くしまっており、黒曜石や弥生土器片が出土した。

1号竪穴建物跡は、対象地の南部に検出し、東側は調査区外に延びる。方形プランを呈し、長軸600cm以上、短軸580cm、深さ約35cmである。主柱穴は4つあり、壁面には幅10cm前後の壁溝が巡る。南壁中央に白色の粘土が堆積しており、窯になる可能性も検討したが、被燃の痕跡や多量の炭は確認できなかった。床面直上に約1～3cmの厚さで微細な炭と焼土を含むにぶい黄褐色粘質土が壁際から中央に向かって堆積し、この層と上層の黒褐色粘質土に多量の土器が含まれる。また、南壁東側の床面直上から炭化した木質が、壁面に直交して2本並ぶ状況を確認した。

遺物は、北西隅からまとまって小型丸底壺7点、南壁中央から西壁南側で完形の土師器の甕、小型丸底壺、土師質の算盤玉形紡錘車が床面直上から出土している。高坏も複数出土しているが、杯部と脚部が分離した状態だった。また、特筆すべき遺物として、南壁中央部のピットからはジョッキ形の陶質土器が出土した。このほか、竪穴建物跡北西の床面を中心に、完形の鉄斧や釘と思われる棒状の鉄器を複数確認した。

小 結

今回の調査では、古墳時代中期初頭の集落の一端を確認した。竪穴建物跡の北側と西側では、遺構も遺物もほとんど確認されないことから、集落は南東に向かって展開していくと推察できる。また、1号竪穴建物跡は、土師質算盤玉形紡錘車やジョッキ形の陶質土器が確認されたことから、朝鮮半島との関連がうかがえる。

(山崎)



3. 1号竪穴建物跡（西から）



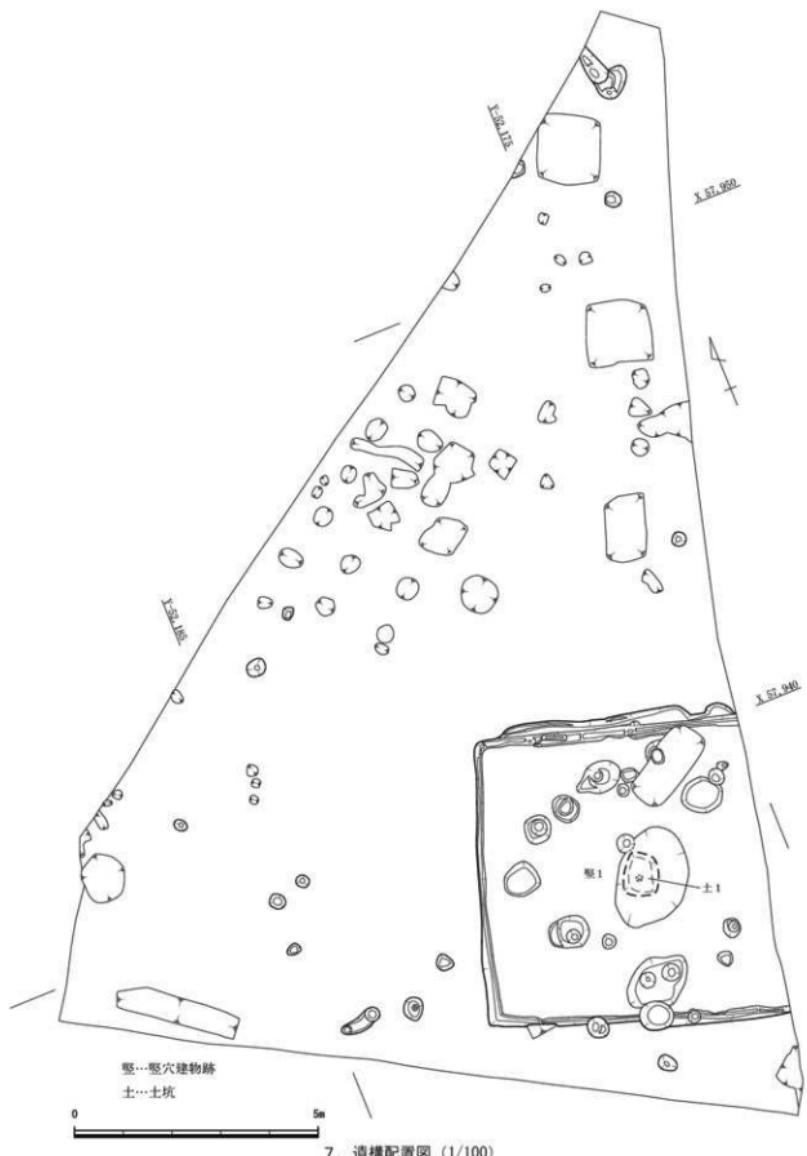
4. 1号竪穴建物跡白色粘土出土状況（北から）



5. 1号竪穴建物跡北西隅土器出土状況（東から）



6. 1号竪穴建物跡完掘状況（北東から）



9 須玖岡本遺跡岡本山地区（17次調査）

所在地 春日市岡本6丁目1番1・2

調査面積 51.40 m²

調査期間 2022年12月12日～2023年3月10日

対象地は、須玖岡本遺跡岡本山地区の中央付近に位置し、周辺地形は大きく改変されるが、北から南に向かい低くなる傾斜地である。南側には奴国の大歴史公園があり、昭和54・55年度に岡本山地区1・2次調査が行われ壺棺墓116基以上、土坑（木棺）墓9基、未掘の墓坑130基以上、祭祀土坑7基と竪穴建物跡8

軒、溝などを確認し、特筆される遺物として小銅鐸鋳型がある。北東側には岡本公園、熊野神社があり、平成12年の8次調査では壺棺墓8基と溝などを確認し、溝は壺棺墓を区画する可能性がある（壇丘墓？）。壺棺墓は下半部しか残存しておらず、1.5m以上削平を受けたと推察できる。なお、17次調査地と8次調査地は市道で分断されるが、古者の話では道路建設の時などに壺棺が出たといふ。

以上のように、17次調査地の周辺は弥生時代墳墓が確認されているが、当地については平成17年度に崖面保全工事に伴い掘削せざるを得なかった13.6m²の調査しか行っておらず、溝とピットを確認したのみで、全容は不明であった。なお、建物があったのか、道路に面した南部は改変されていると思われた。令和3年6月に地中レーダー探査を行った結果、当地の北部と東部で墳墓などの遺構の



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（北西から）

可能性がある反応が見られた。

これらのことから、遺跡検出面までの深さや覆土の状況、遺構の内容や分布状況はもとより、当地での地中レーダー探査の有効性などを確認するために、確認調査を実施した。なお、小型のビットを除き、遺構は原則完掘していない。



3. 1 トレンチ（南西から）

遺構・遺物

確認調査は、地中レーダー探査で見られた対象地北東部の異常点の確認を主眼として調査区を設定し、地形や遺構の検出状況に応じてトレンチの範囲を適宜拡張した。



4. 2 トレンチ 1号竪穴建物跡（南東から）

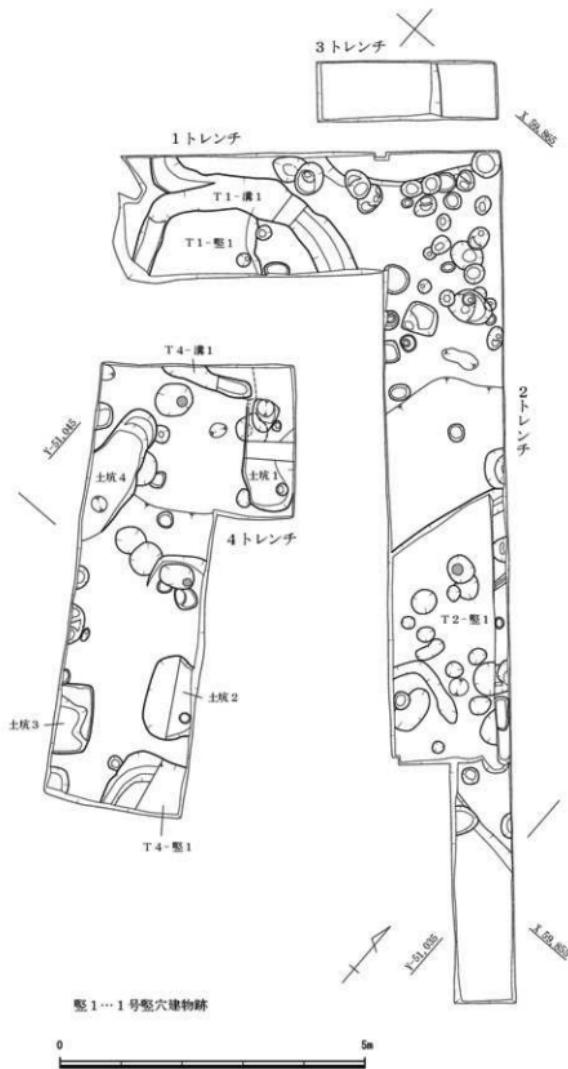
まず、人力により幅 2 m のトレンチを「L」字形に設定した。1 トレンチは、地表下 30 ~ 50 cm で地山に達し、東部はビット、中央から西部にかけては飛鳥時代の溝と重複する弥生時代中期後半の竪穴建物跡を検出した。特筆される遺物として、溝から出土した鉄鏃と包含層から出土した弥生時代の青銅器生産に関する坩堝がある。1 トレンチを補うため幅 1 m の 3 トレンチを北側に設定した。1・3 トレンチは、地中レーダー探査の異常点に含まれるが甕棺墓は確認できなかった。なお、異常点は他にもあったが、樹根の下であったり、危険箇所であったりするため、こちらは調査できなかった。北東部に設定した 2 トレンチは、50 cm 下げると地山に達し、1 トレンチ付近の高所にはビットが集中し、下方では竪穴建物跡を確認した。これらの成果を受けて、南西側に 4 トレンチを設定した。4 トレンチは包含層上面まで重機で掘削し、以下は人力で掘削した。竪穴建物跡 1 軒、土坑 4 基、溝 1 条などを検出し、竪穴建物跡は、弥生終末期の土器が出土し、磨製石鏃、鉄器が出土した。溝については飛鳥時代で、1 トレンチの溝の続きと考えられる。4 基の土坑は弥生時代のものと考えて良かろう。

小 結

今回の調査では、弥生時代の集落を中心とする遺構を確認し、甕棺墓など墓地は確認できなかった。また、溝やビットなどからは飛鳥時代の土器や瓦が出土したことから、当該地が飛鳥時代にも利用されていたことが分かった。なお、坩堝の出土は、須玖岡本遺跡の丘陵部の青銅器生産を考えるうえで、たいへん興味深い発見である。

調査終了後は、重機を使用して排出した土砂を埋め戻し、原状に復した。今後、地中レーダー探査の分析精度を上げ、他の調査に応用する必要がある。

(井上)



5. 遺構配置図 (1/80)

10 須玖岡本遺跡岡本山地区（18次調査）

所在地 春日市岡本2丁目97番

調査面積 28.23 m²

調査期間 2022年12月26日～2023年3月10日

対象地は、須玖岡本遺跡岡本山地区の中央東よりに位置し、現在は更地になっているが、過去には家屋があり造成を受けていた。南側には奴国のかつ歴史公園があり、昭和54・55年度に行われた岡本山地区1・2次調査では、甕棺墓116基以上、土坑（木棺）墓9基などの墳墓が確認されている。また、北側には岡本公園、熊野神社があり、平成12年度の8次調査では甕棺墓8基と溝などを確認し、甕棺墓は下半部しか残存しないため150cm以上は削平を受けたと推察できる。溝は甕棺墓を区画する可能性があるため、墳丘墓の存在が推察される。

18次調査地は、平成17年度に行った史跡化前の確認調査（10次調査）によって、地形は大きく改変され、辛うじて甕棺の抜き跡と考えられる土坑やビットを確認できた。

今回の調査は、当該地の南側道路沿いに築かれた倒壊の危険性がある空洞ブロックの除去と根本的な法面保護のために生じた防災及び法面保護整備工事に先立ち、工事対象範囲の遺構分布状況を把握することを目的とした。

遺構・遺物

まず、対象地で事前に行われた10次調査について少し触れる。平成17年5月17～26日に行った確認調査である。全体的に深さ10cm程度で地山に達し、西側は深さ50cmとやや深い。地山は砂質で層縞線が見られるので、かなり削平を受けることが分かる。表土などからは弥生土器が出土するが、近隣からもたらされた可能性もある。ただし、1トレンチにおいて土坑状の掘り込みがあり、ガラス瓶と共に甕棺片が出るため、調査者は甕棺墓坑の残骸と考えているが、確定はできない。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景 (上が南東)



3. 調査区全景 (北東から)

18次調査は、対象地の南半部に「コ」字状にトレンチを設定し、人力で掘削を行った。南北方向のトレンチの西側を1トレンチ、東側を2トレンチ、両者をつなぐ東西方向のトレンチを3トレンチとした。2・3トレンチは、地表下0.1m前後で砂質の強い地山層に達し、明確な遺構は検出できなかった。1トレンチは、以前あった住居の入口部付近であることと関係があるのか。深いところでは、地表下1m以上まで擾乱され、遺構は未検出である。各トレンチともに、表土などから弥生土器を中心とする土器が出土したが、これらが本来この場所に包含されていたかは分からぬ。



4. 1トレンチ西側土層（北東から）

小 結

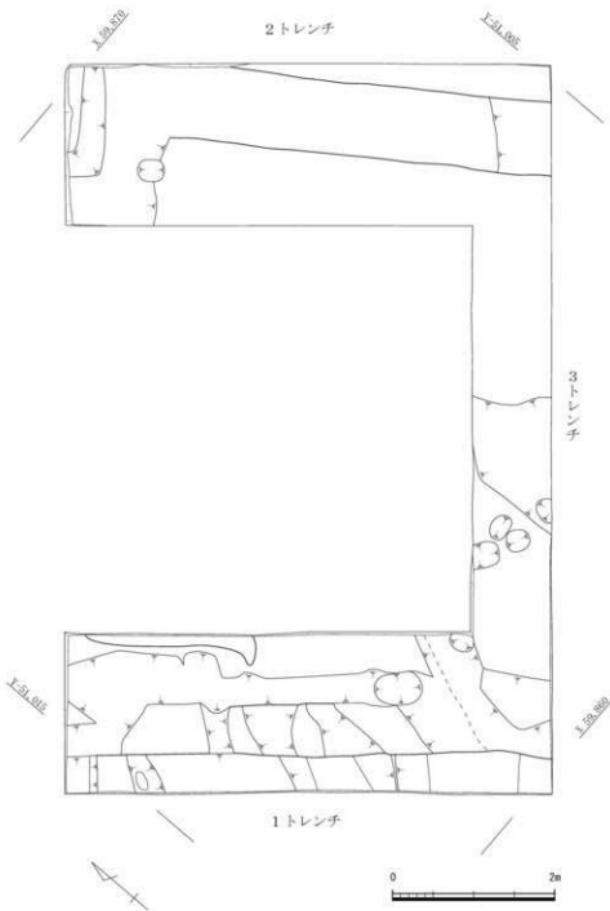
今回の調査結果は、平成17年度に対象地中央部で行った10次調査と同様で、地形はかなり改変され、遺構はすでに滅失していることが分かった。

なお、調査終了後は、重機を使用して排出した土砂を埋め戻し、原状に復した。

(井上)



5. 岡本地区 17・18次調査区全景（上が北西）



6. 造構配置図 (1/60)

III 文化財普及啓発事業

1 企画展示等

① パネル展

令和3年度に実施した発掘調査の写真パネルを展示しました。

テーマ 「発掘された春日の遺跡」

会期 4月16日（土）～5月29日（日）

会場 奴国の丘歴史資料館 エントランス

入館者 1,833人

関連講演会

文化財課職員による令和3年度発掘調査の概要報告を郷土史研究会と合同で実施しました。

日時 4月24日（日）

演題 令和3年度発掘調査成果報告

会場 奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 32人

② トピック展

令和3年度に市指定有形文化財に指定された「豊臣秀吉奉行人連署禁制 附 中島利一郎添書」、「仕渡ス書物之事 写（白水池分取極書）」の古文書2件を展示しました。

テーマ 「市指定化記念展」

会期 4月30日（土）～5月29日（日）

会場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 1,597人

③ 奴国の丘歴史公園絵画展

春日北中学校1年生が奴国の丘歴史公園にて行ったスケッチ大会での作品(131点)を、資料館で展示しました。展示作業は春日北中学校の美術部員と一緒に行いました。

日時 7月20日（水）～8月7日（日）

会場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 398人

④ 考古企画展

日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」



パネル展 準備風景



市指定化記念展



豊臣秀吉奉行人連署禁制



奴国の丘歴史公園絵画展 準備風景



考古企画展 展示風景

において春日市内にある構成文化財を紹介・展示しました。

テーマ 「春日市の日本遺産」

会期 8月27日（土）～10月2日（日）

会場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 2,875人

関連講演会

日時 9月3日（土）

演題 「西の都」時代の春日

講師 坂上康俊氏（九州大学名誉教授）

会場 奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 41人

⑤ 民俗企画展

テーマ 「どうすごす？季節の民具」

会期 1月21日（土）～3月5日（日）

会場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 3,131人

2 やきものづくり教室

5、6、9、10、12、2月の第2土曜日にウトグチのぼり窯体験広場で午前、午後各1回やきものづくり教室を実施しました。

参加者（年12回実施） 合計83人

3 発掘調査体験

春日北小学校のグラウンドにて、小学校5、6年生と中学1年生、学童保育の生徒の中から希望者を募って、レーダー探査に基づいた発掘調査体験を行いました。

日時 7月28日（木）、7月29日（金）

会場 春日北小学校グラウンド

参加者 合計55人（28日42人、29日13人）

4 わくわく歴史体験

奴国の丘歴史資料館研修室で体験イベントを実施しました。

第1回 竹水でっぽうづくり

日時 5月7日（土）



考古企画展 関連講演会



民俗企画展 展示風景



やきもの作り教室 作陶風景



竹水でっぽうづくり



土器修復体験

午後 1 時半～ / 2 時～ / 2 時半～

参加者 31 人

第2回 土器修復体験

日 時 8月 17 日 (水)

午前 10 時～ 12 時／午後 1 時～ 3 時

参加者 19 人

第3回 しめ飾りづくり

日 時 12月 17 日 (土)

午前 10 時～ 12 時

参加者 20 人



しめ飾りづくり



須玖岡本遺跡めぐり



小水城めぐり

5 ブラかすが歴史散歩

第1回 須玖岡本遺跡めぐり

日 時 10月 15 日 (土)

午前 9 時半～正午

参加者 13 人

第2回 小水城めぐり

日 時 11月 19 日 (土)

午前 9 時半～正午

参加者 14 人

6 弥生の里かすが奴国の丘フェスタ

奴国を中心とした須玖岡本遺跡を始めとした市内の史跡地等から出土した遺物を収集、保存、展示している奴国の大山歴史資料館を中心にイベントを行い、重要な遺跡や遺物の存在を、市民を中心に広く発信しました。

なお、今回の開催にあたっては、「市制 50 周年記念事業」の冠事業として行い、記念品の作成などで、フェスタをより一層盛り上げました。

日 時 9月 24 日 (土)

会 場 奴国の大山歴史資料館、歴史公園

参加者 約 2,300 人



奴国の大山フェスタ バックヤードツアーアクティビティ



奴国の大山フェスタ スタンプラリー参加記念品

7 学習支援活動

小中学校の授業や生涯学習活動の一環として資料館の展示見学や遺跡見学、体験学習の説明・指導を実施しました。

市内学校	36 件 (3,954 人)
市外学校	3 件 (325 人)
市内中学校職場体験	1 件 (5 人)
一般団体	53 件 (806 人)



春日西小学校 日拝塚古墳見学

8 博物館実習

教育普及活動の一環として、大学から博物館学芸員課程における実習生の受け入れを行いました。

大学 1 件 (1 人)

期間 8 月 16 日 (火) ~ 8 月 22 日 (月) のうち 5 日間



白水小学校 瓦づくり体験

9 出前講座等

自治会等が開催するイベントや市内にある学校の授業への支援を行いました。

市内学校 8 件

自治会等 6 件



家庭教育学級 勾玉づくり

10 ボランティア組織

奴国の丘歴史資料館および隣接する須玖岡本遺跡の見学者に案内・解説を行う奴国の丘サポーターと、ウトグチのぼり窯体験広場で実施するやきものづくり教室を支援するやきものボランティアが組織されています。

奴国の丘サポーター 23 人

やきものボランティア 13 人



奴国の丘サポーター定例会

11 資料貸出

考古資料等 3 件

写真資料 21 件

民具資料等 1 件

12 入館者数

奴国の丘歴史資料館 13,322 人

ウトグチ瓦窯展示館 567 人

13 利用案内

春日市奴国の丘歴史資料館（春日市岡本3丁目57番）

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎月第3火曜日（祝日に当たる場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料（特別展では有料の場合もあり）

駐車場 22台駐車可（無料）

交通アクセス JR鹿児島本線 南福岡駅より徒歩20分

西鉄天神大牟田線 雜餉隈駅より徒歩24分

九州自動車道 太宰府インターより車で5.6km

春日市コミュニティバス

①桜ヶ丘線 奴国の丘歴史資料館前下車すぐ

②須玖線 岡本1丁目下車徒歩7分

ウトグチ瓦窯展示館（春日市白水ヶ丘1丁目4番）

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日、祝日、第3火曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

火曜から金曜日に見学する方は要予約

入館料 無料

駐車場 なし

交通アクセス JR鹿児島本線 春日駅
西鉄天神大牟田線 春日原駅 } より西鉄バス「池の下」下車徒歩5分

JR博多南線 博多南駅より徒歩15分

春日市コミュニティバス 上白水線 ウトグチ瓦窯展示館下車徒歩2分

IV 附編（調査・研究報告）

1 令和4年度須玖岡本遺跡確認調査（地中レーダー探査）

確認調査の経緯と概要

奴国を中心部分として重要な須玖岡本遺跡については、平成29年度に史跡須玖岡本遺跡保存活用計画を策定し、遺跡の範囲内に「王墓エリア・王族墓エリア・青銅器工房エリア」の重点エリアを設け、優先的な史跡指定及び公有地化と活用・整備を行うこととしている。遺跡の学術的な調査・研究を推進していくために平成30年度に設置した春日市文化財専門委員による須玖岡本遺跡調査研究部会から、今後の確認調査を行う前提として、対象地の地中レーダー探査の実施が必要であるとの指導助言を受け、令和元年度に当該探査を実施し、養棺墓の推定に有効なデータを得ることができた。令和2年度以降は年度内に2~3箇所でレーダー探査を実施し、遺跡内に埋蔵される遺構の状況把握を行うとともに、探査成果を基とする確認調査（発掘調査）により遺構の具体的な内容確認に努め、併せてレーダー探査に係る当地での有効性等の検証を続いている。

令和4年度については、王族墓域に想定される墳墓に伴う周溝や墳丘の痕跡が残存する可能性、一般成員墓域の北端部における土地利用の状況などを確認するため地中レーダー探査を行った。また、引き続き地中レーダー探査の成果を基に確認調査を実施し、遺構の性格の把握に努める。以下に令和4年度に実施した2件の地中レーダー探査について概要を記す。

調査1

所在地 春日市岡本2丁目90番1、91番1~3

調査面積 1,290.5 m²

調査期間 2022年5月24日

調査地は須玖岡本遺跡岡本山地区の北端部に位置する。熊野神社境内の東側に隣接し、ここから北東方面は地形が急落するため福岡平野への見晴らしが良い立地である。今回の調査では、熊野神社境内から連続する一般成員墓群あるいは、掘立柱建物や溝などを主体とする居住城か土地利用の手掛かりを得ることが期待された。また、対象地中央付近に目視さ



1. 調査地の位置 (1/5000)



調査1作業風景

れる小高い部分が古墳の残欠である可能性についても視野に入れた。

対象地において現地表面から概ね 0.4 m の深さまでは、近現代に擾乱された表土層であり、北方に向かって深くなる傾向が認められた。深度 0.6 ~ 0.8 m で遺構の可能性がある局所的な反射体の反応が認められたが、甕棺墓や須玖岡本遺跡に関連する遺構と明確に推定できる反射パターンは検出されなかった。調査範囲の中央付近にある現地表面の高まりについても古墳の周濠跡と推定できるような反射パターンは検出されなかつた。明確に墓坑や住居跡等の遺構と推察し得るものではなかつたが、反射反応自体は各所に見られ、これまでの周辺での発掘状況等から追加で詳細な確認を行う必要があり、本探査結果を基にしたトレーンチ掘削による確認調査を令和 5 年度に実施する。

調査 2

所在地 春日市岡本 7 丁目 45 番

調査面積 2,703.9 m²

調査期間 2022 年 5 月 24 日

調査地は須玖岡本遺跡岡本地区で王族墓群の北部に位置する。昭和 4 年に京都帝国大学が実施した発掘



調査 2 作業風景

調査地 B 地点と重複し、平成 26・27 年度の確認調査 (20

次調査) では銅剣・青銅製把頭飾を副葬した中期前半の甕棺墓を検出している。大正時代に多数の甕棺墓と銅鏡 2 面が耕作時に発見されており、王族墓域の中でも枢要な部分と想定されている。

今回の調査では、既往の調査で未確認の遺構の存在と分布状況の確認を目的とした。対象地の 4 箇所で検出された甕棺墓と推定できる反射パターンは、地山等の相対的に均質な土層内にあり、反射波が独立して検出されたため、その分布状況を明確にすることが出来た。これらが甕棺墓であれば残存状況は比較的良いものと思われるが、残存状況が悪い甕棺墓と推定される局所的な箇所も 2 箇所に認められた。甕棺墓が原形を保っていない状態は既往の発掘調査でも多く確認されていることから類推すると、今回の調査範囲内にも捕捉不能な残存状況の悪い甕棺墓が存在する可能性がある。

このことから当地で検出した局所的な箇所については、今後の発掘調査で確認することによりレーダー測定記録の解釈精度の向上や甕棺墓の検出数に反映できると考えられる。また、対象範囲の南西隅で甕棺墓が推定される箇所においては、レーダー探査後に金属探知機による金属探査を実施したところ、金属製遺物が埋納・残存している可能性があり、発掘調査に先立っては十分に遺物発掘・保存方法等について検討する必要がある。以上のことを踏まえ、本探査結果を基にしたトレーンチ掘削による確認調査を令和 5 年度に実施する。

(吉田)

令和 4 年度
春日市文化財年報

発 行 日 令和 5 年 9 月 29 日
編集・発行 春日市協働推進部文化財課
福岡県春日市原町 3 丁目 1 番地 5
印 刷 大道印刷株式会社
春日市日の出町 6 丁目 23 番地

